

医師の労働時間短縮のための手技に関する検討

研究分担者 平井 俊範 熊本大学大学院生命科学研究部・放射線診断学・教授

研究要旨

タスク・シフト/シェアの推進において、現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するとされた業務のなかから、定型的業務の抽出を行い、その抽出をした定型的業務に関する資材の作成を行う。その作成をした各資材の有用性の検証と実装を行い、全国的に利用可能な形に標準化するとともに汎用性を高める。

A. 研究目的

厚生労働省の「医師の働き方改革に関する検討会」がとりまとめた報告書において、医師の労働時間短縮のためには「医療従事者の合意形成のもとでの業務の移管や共同化（タスク・シフティング、タスク・シェアリング）」を徹底して取り組んでいく必要があるとされた。そのタスク・シフト/シェアにおいて現行制度の下で実施可能な業務のうち特に推進するものとして、患者への説明と同意の取得、各種書類の下書き・仮作成、診察前の予診・問診、患者の誘導が挙げられている。医師が行う業務には、患者毎に医学的な判断のもと異なった対応を必要とする業務がある一方、上述の特に推進するとされたタスク・シフト/シェア対象の業務は、一定程度、定型的な対応が可能であると考えられる。これらの業務についてタスク・シフト/シェアを推進するにあたっては、定型事項に関して、音声付き動画による説明（検査・輸血・麻酔・手術他）用のDVD等の資材を作成することで、医師の説明時間の大幅な短縮と業務の効率化が図られ、臨床上極めて有用と考えられる。

本研究においては、そうした定型的な対応が可能業務を抽出し、当該事項についてのDVD等の資材の作成やその有効性の検証等を行い、各医療機関における実装を進めることで、医師の働き方改革に関わる一連の制度の円滑な運用に資することを目的とする。

B. 研究方法

前年度に行った同意書の発行数の調査では画像診断に関する内容が最も多かったことから、画像診断領域の資材作成は必須と考えら

機関においても広く行われる検査であることから、造影CT検査に関する説明動画を作成することとした。

説明動画を作成するにあたっては、実際に患者の対応に当たる看護師や放射線技師等のメディカルスタッフに確認しながら作成し、適宜、代表者および分担者からなる班会議の場でも内容を議論しながら作成した。

C. 研究結果

令和3年度は定型的業務の中で、全診療科に共通する同意書の種類のなかで頻度が最も高い画像診断検査の説明、特に造影CT検査についての患者への説明動画を作成した。以下に資材の一部を図として示す。



図1 造影CTについての説明



図2 造影CT検査の流れの説明

作成に当たっては視覚的にわかりやすいように、実際のCTの機械(図1)や、造影CT検査の流れ(図2)を写真等を用いて提示している。作成に当たっては看護師、放射線技師等のメディカルスタッフにも協力を得て、実際の撮影と同様になるように写真を構成した。作成動画は5分程度で、造影CTの概要、検査のメリット、造影剤の概要、実際の検査の流れ、造影剤の副作用、チェックリストから構成した。音声は自動音声入力システムを用いて行った。今後、実際に臨床現場に導入し、医師の時間短縮に貢献するか、患者からのフィードバックなど検証が必要である。

D. 考察

令和3年度の同意書取得に関する調査で、同意書の種類別では全診療科に共通する画像診断(造影検査)が最も多かった。その画像診断検査の中で、造影CT検査の説明動画を作成した。今後、実際に臨床現場に導入し、医師の説明・同意の取得に関する時間短縮に貢献するか、患者からのフィードバックなど検

証が必要である。

E. 結論

同意書の種類別で全診療科に共通する画像診断(造影検査)が最も多かったため、造影CT検査の説明動画を作成した。今後、医師の説明・同意の取得に関する時間の短縮に寄与するかなどの検証が必要である。

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし